

2. 確認地点数

- ・インベントリー調査におけるウミボツスの確認地点数は表-2.1 に示すとおりであり、冬季から春季にかけてはほぼ毎年確認されている。
- ・冬季と春季を比較すると、春季の確認地点数の方が多い傾向にある。
- ・評価書に示した平成 22 年度までの調査では、平成 20 年度冬季の 12 地点が最大であったが、平成 24 年度以降の春季調査ではそれを上回る地点で確認されており、特に平成 25 年度以降は 25 地点以上で確認されている。
- ・改変区域内 (22 地点) における確認地点数は、平成 25 年度春季の 7 地点が最大である。

表-2.1 インベントリー調査におけるウミボツスの確認地点数

調査時期	春季 [3～5月]	夏季 [6～9月]	秋季 [10～11月]	冬季 [12～2月]
平成 19 年度	12 (3)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
平成 20 年度	8 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
平成 21 年度	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
平成 22 年度	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
平成 23 年度	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
平成 24 年度	15 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (6)
平成 25 年度	25 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (5)
平成 26 年度	27 (4)			

注) (カッコ) 内の数値は改変区域内の確認地点数を示す。

(参考) 平成 19 年度夏季～平成 21 年度春季：シユワヅ (H18) 環境現況調査 (その 3)
 平成 21 年度夏季～平成 22 年度夏季：シユワヅ (H21) 水域生物等調査
 平成 22 年度秋季～平成 23 年度夏季：シユワヅ (H22) 水域生物等調査
 平成 23 年度秋季～平成 24 年度冬季：シユワヅ (H23) 水域生物等調査
 平成 25 年度春季～平成 25 年度秋季：シユワヅ (H24) 水域生物等調査
 平成 25 年度冬季～平成 26 年度春季：シユワヅ (H25) 水域生物等調査

3. 確認地点

- ・インベントリー調査における調査時期別のウミボツスの確認地点は図-3.1 に示すとおりである。
- ・平成 19～26 年度的全調査期間における地点別の確認回数は図-3.2 に示すとおりであり、確認回数が比較的多い地点は、大浦湾西岸側の代替施設本体の改変区域内に集中しているほか、大浦湾奥部や潟原・久志地先海域にもみられる。

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(1) ウミボツス確認地点 (平成19年度冬季及び平成20年度春季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(2) ウミボツス確認地点 (平成21年度春季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(3) ウミボツス確認地点 (平成21年度冬季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(4) ウミボツス確認地点 (平成23年度春季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

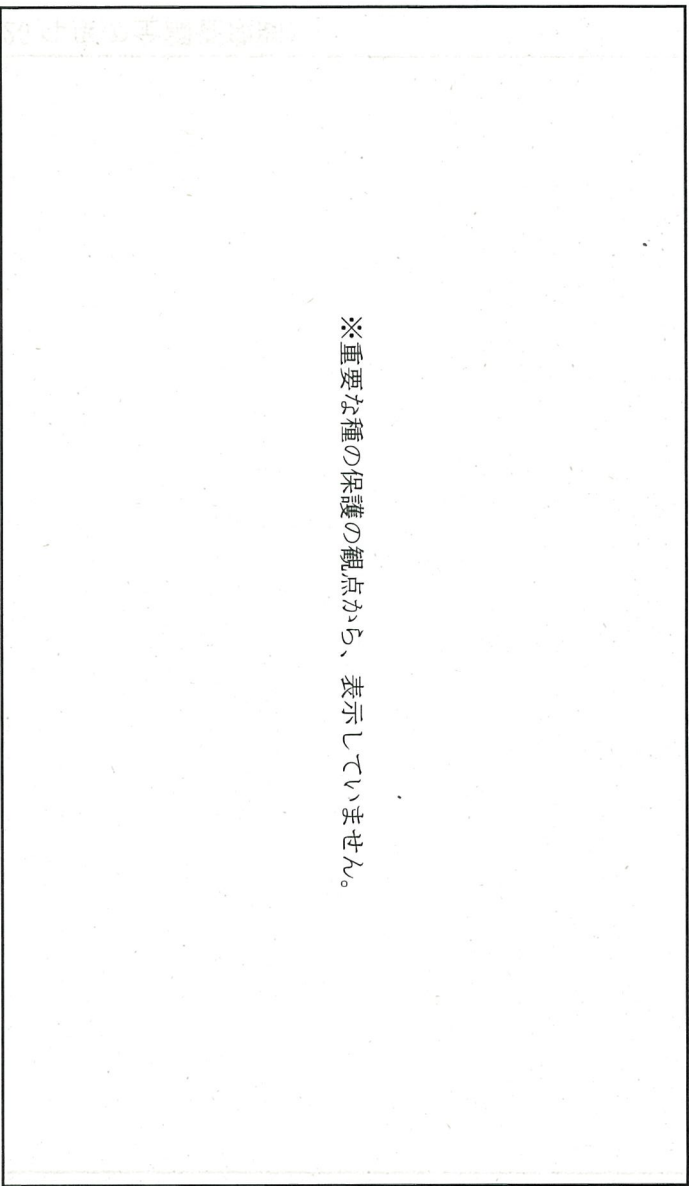
図-3.1(5) ウミボツス確認地点 (平成23年度冬季、平成24年度春季及び冬季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(6) ウミボツス確認地点 (平成25年度春季)

※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.1(7) ウミボツス確認地点（平成25年度冬季及び平成26年度春季）



※重要な種の保護の観点から、表示していません。

図-3.2(1) 調査地点別のウミボツス確認回数（平成 19～26 年度の全調査期間）

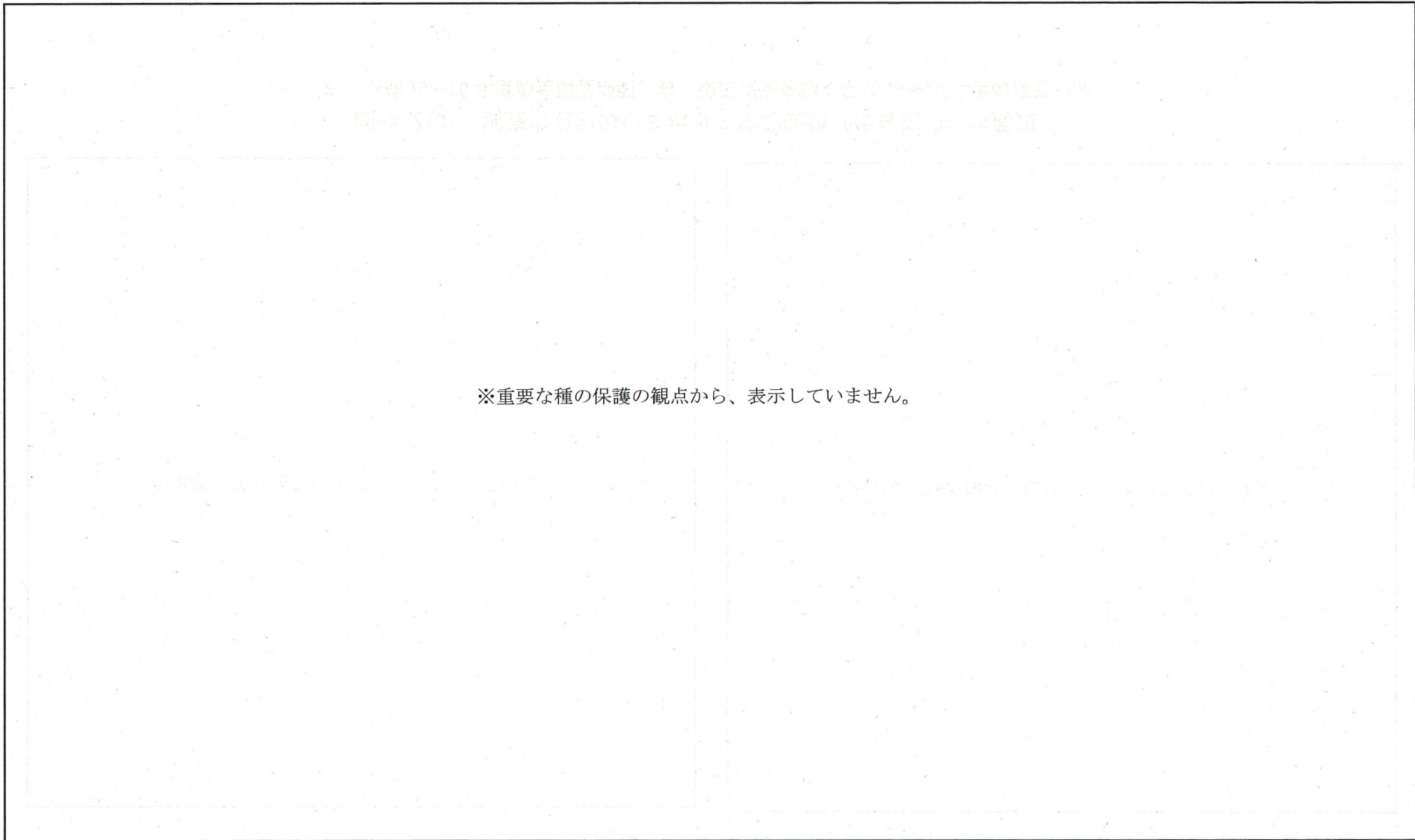


図-3.2(2) 調査地点別のウミボツス確認回数（現況調査を除く平成19～20年度の調査期間）

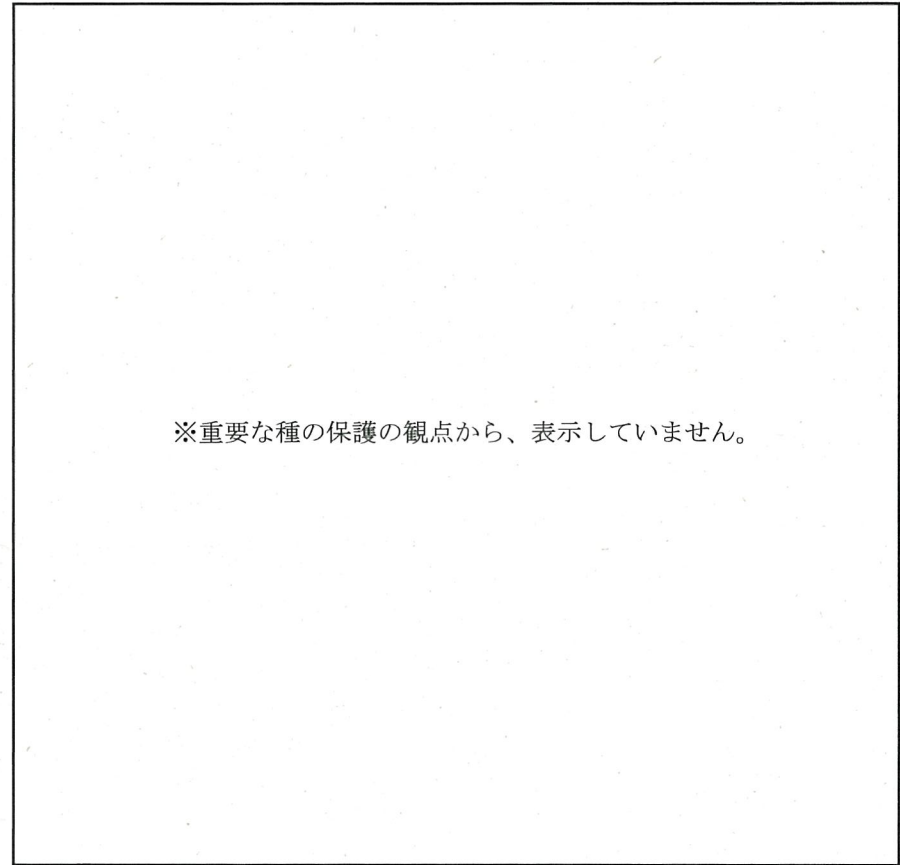
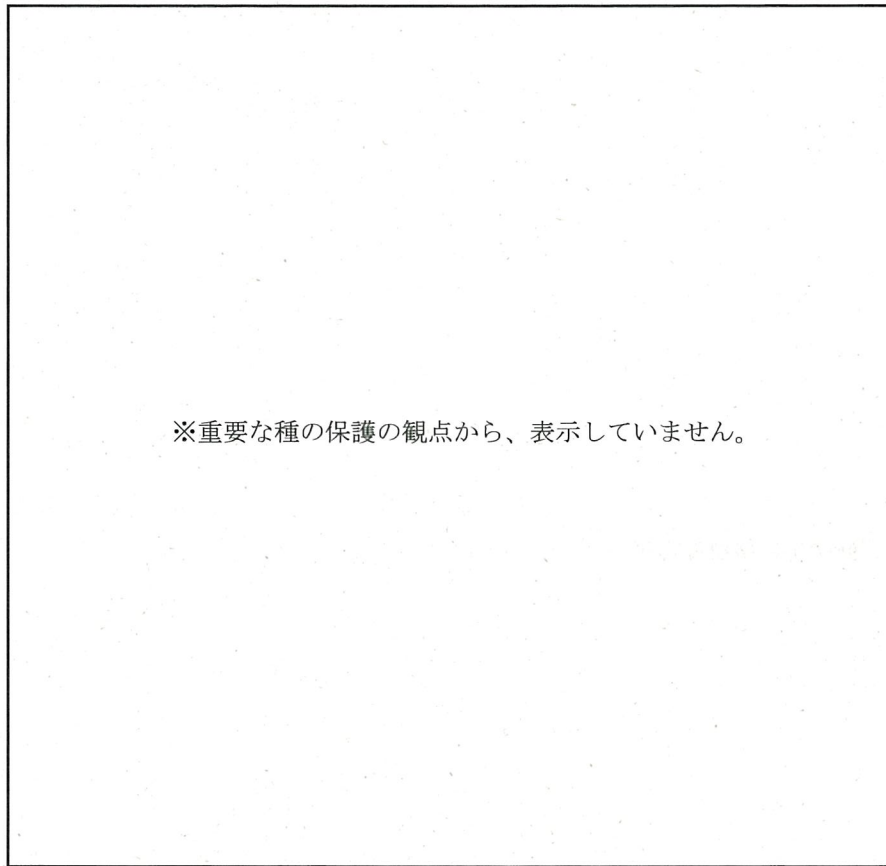


図-3.2(3) 調査地点別のウミボツス確認回数（代替施設本体周辺）
左：平成 19～26 年度の全調査期間、右：現況調査を除く平成 19～20 年度の調査期間

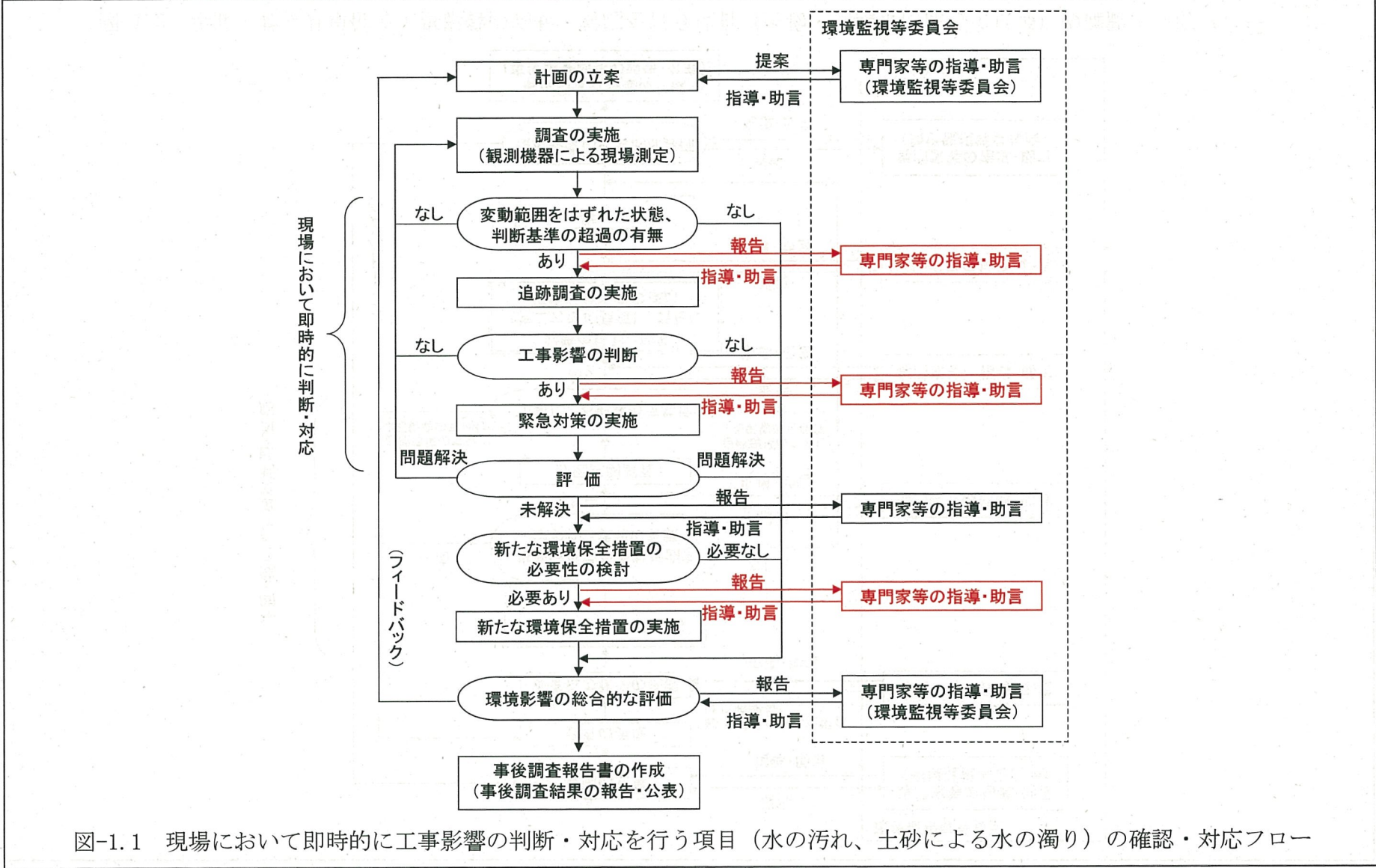


図-1.1 現場において即時的に工事影響の判断・対応を行う項目（水の汚れ、土砂による水の濁り）の確認・対応フロー

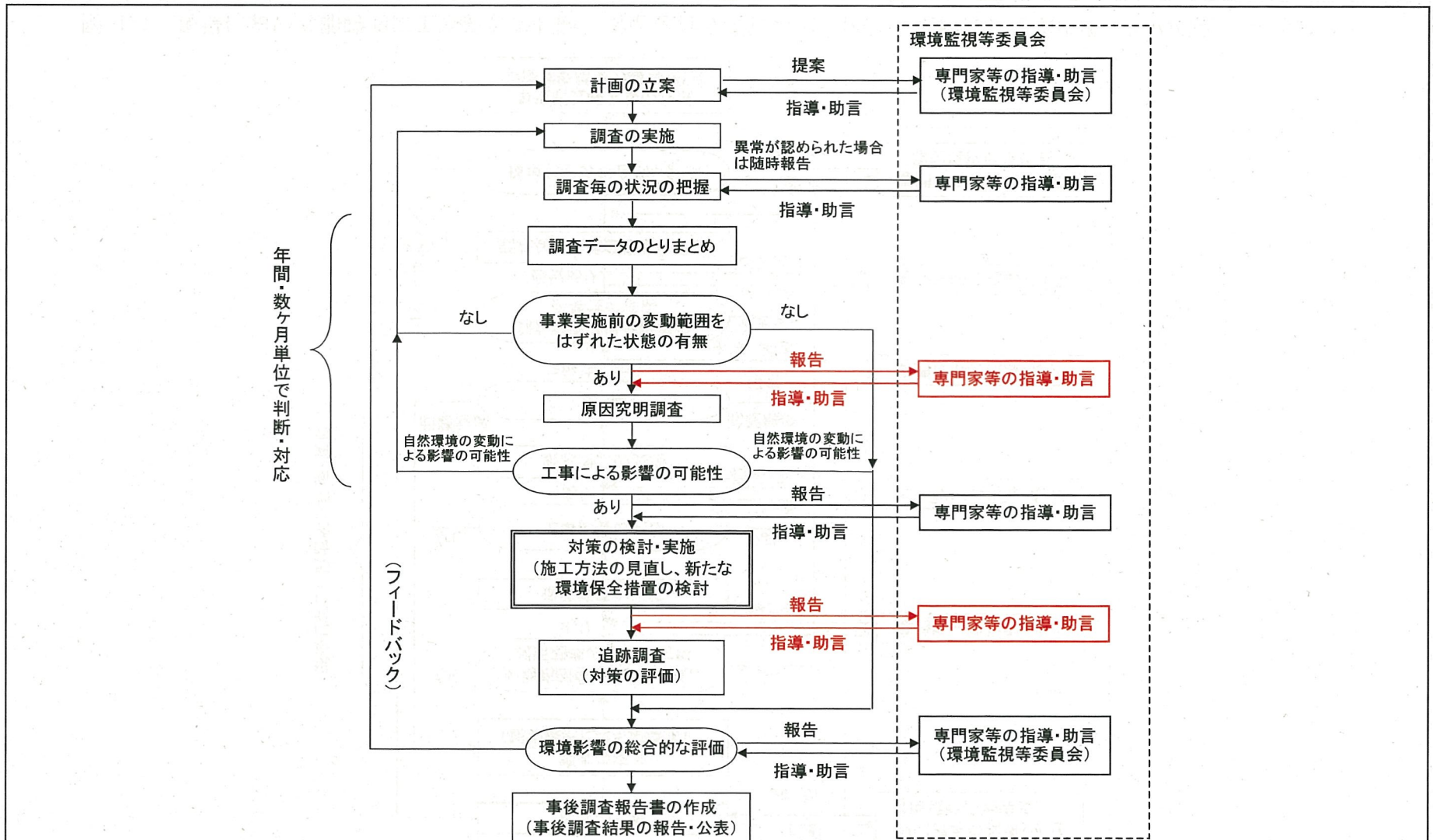


図-1.2 年間・数ヶ月単位で工事影響の判断・対応を行う項目（生物・生態系に係る項目等）の確認・対応フロー